

苫東環境コモンズ

楽しく有意義な地域活動のために

～入会と通年活動の「しおり」～

2024年4月1日

(文責:代表理事 草苅健)

このペーパーは、NPO法人苫東環境コモンズ(以下、苫東コモンズ)が苫東地域内で行う四季を通じた活動において、2010年(平成22年)1月の法人認可以来、NPOが置かれた折々の状況を踏まえてその都度取り決め積み上げてきた運営上の内規を、円滑でより持続可能なものにするために一旦総括的に文言化した段階的指針です。

取り扱いは、これまでと同様、時々の状況に応じ見直しを行い、理事会の記録として保存し会員全体に周知していきます。また、あたらしい会員の入会にあたっては、この「しおり」に沿って説明を行うこととします。

1. NPO苫東環境コモンズの目的

苫東コモンズの定款では法人の目的を次のように定めています。基本的に苫東地域の計画緑地内にほぼ限定し、土地所有者である「株式会社 苫東」(以下、(株)苫東)と土地の使用について協定を結んでいます。「勇払原野の風土の共有」「コモンズの利活用」を基本とします。

《当法人の目的》

「苫東地域の広大で魅力のある現況緑地について地域住民が利活用しながら環境保全に参加することを「環境コモンズ」という概念でとらえ、保全と利活用の促進について一般市民と市民団体、企業等がともに貢献することを目的とする。」

2. 活動の内容

(1) 環境保全事業

環境アセスメントで樹林地保全の目的の対象としている「ミズナラ・コナラ林」を保育と修景によって保全を行います。保全目的の背景には苫東エリアが広大なコナラ群落の日本の北限に当たるという環境アセスメントの位置づけがあります。勇払原野のミズナラ・コナラ林は、薪炭として伐採した後に成立した広葉樹二次林(以下、雑木林)がほとんどですが、これまではほぼ放置されて荒廃した状態でした。このような二次林を、地域のために美しい雑木林本来の姿を求めて修景していくにあたり、どのように対応し持続させていけばよいのかという指針が不在

のため、苫東コモンズは既存の林業的知見を踏まえつつ、その方策についても研究機関とも連携を採りながら少しずつノウハウを蓄積し保育を進めています。対象は苫小牧市静川と厚真町共和等にまたがる平木沼緑地および安平町遠浅の大島山林(アセスの骨格緑地)です。

この目的を達成するために、会員は保育のために必要な林業技術の習得と安全意識の醸成に努めます(チェンソースキルアップ研修については章末8p参照)。

(2) 現況緑地利活用事業

保育と並行して、勇払原野の宝と位置付けている雑木林の利活用を進めます。具体的には、放置されて荒れた林を雑木林の持つ本来の森林美を発揮させ、苫東らしい里山景観の創出および維持と、その里山を地域住民がアクセスし利用できる(共有)コモンズとして協定で位置づけ、安全な里山的利活用を推進します。

まず、里山を体験するフットパスを創り開放し管理します。また遠浅では町内会を中心とした探鳥会を実施しています。雑木林の除間伐を行う際に発生する材は、林内で腐らせず可能な範囲で運び出して薪に加工して利用します。薪は雑木林の種の組成を反映してミズナラ・コナラが40%前後を占めサクラやシラカバなど多種の広葉樹が混じることから、勇払原野のブランド「雑木薪」と呼ぶようにしています。

また、会員全体で取り組む大島山林の保育とは別に、会員が独自の美的感覚を発揮して「マイ・里山」を目指し定期的(5年程度)に育林の成果を競いつつ意見交換する「育林コンペ」(後述 9-①)を継続しています。この試みは、NPO設立の基になったもので平成9年から仮のオーナーを交代しながら実施しており、現在10ブロック、個人用には約5,000㎡が用意されています。

(3) 調査研究事業

苫東緑地には上で述べた通り管理のためのマニュアルが不在のため、雑木林の保育手法について、道内外の林業の事例や研究成果に注目しながら、学会情報等も考慮し簡単な調査研究を行うほか、これらの実績を踏まえて土地所有者である(株)苫東から、コンサルティング業務を受託することがあります。

また、苫東コモンズ設立のきっかけになった地域慣習的コモンズのアスカップ自生地について、土壌の乾燥化に伴う樹木の侵入と被圧について現状を把握しアスカップの消長について発信しました。さらに、GPSを使った本調査と遷移観察およびコモンズの考え方等について、平成31年3月に、『アスカップとわたし』という一冊に取りまとめて出版しました。その後、同地域が安平川の遊水地として所有者が交代し新たな計画が出来つつあることから、苫東コモンズは自生地を継続観察するにとどめることとし、今日に至ります。

(4) その他

苫東コモンズでは、大事なテーマとして「勇払原野の風土を共有する」ことを謳っているとお

り、四季の山菜、風景、野生生物観察などを、定期的な通常活動の中でも時間を設けて堪能する機会を持ちます。食毒の判別が難しいキノコについては、特に「採取と食毒判別会」を遠浅町内会等にも呼びかけ毎年開催し、会員の有識者が判別、指導します。もちろんそれ以外でもプライベートで探索することは可能で、そこで得た大切な情報は掲示板などで共有しています。

このほか、この法人の目的を達成するために必要な事業として、ホームページなどの広報活動、地域の環境問題解決に関する検討委員会参画など、状況に応じた各種の対応をします。特に、土地の独占的使用から重層的利用へと社会的ニーズが移行するにつれ、コモンズ的な試みが注目されてきた関係で、昨今は、苫東コモンズが謳ってきた風土の共有の取り組みとコミュニティ林業の試みについて、広く発信する必要性が高まっていると考えられます。

3. 入会の資格

NPOの目的、趣旨、活動内容に共感し活動ができる方は参加できます。必ずしも会員として参加しなくても、活動エリアを利活用するコモンズの性格上、自由に立ち入りフットパスを歩くなどは可能です。かつて会員であった方やサポートする方を「会友」として時々の活動に参加する受け皿もあり、これらの方々に対しては不定期で広報も行われます。

入会することは、種々の保全活動等(4の①～⑧)に参加する、ということになりますが、現在大多数の会員が取り組んでいる除間伐に主体的に取り組むためには、伐倒に必要な器具と安全装備1セットを個人で保有する必要があります。当面保有はできないという場合は、除間伐作業に従事する会員の補助員として枝片付け、丸太運搬など、多種の作業の中から状況に合わせて選ぶことができます。フットパスの維持管理に使う刈り払い機はNPOが所有する器具を使用することができます。

また、薪ストーブを日常的に利用し、かつ、装備を所有して、薪の無償分譲を希望する新規会員については、毎シーズンの生産量と分譲会員の需給状態に鑑みて、入会が条件付きで可能になることがあります。ただし、稼働に応じて入手する薪は、第三者に再譲渡したり販売することはできません。

上記の補助員と条件付き新規入会の場合は、入会に関するオリエンテーリングの際に役員、事務局とこの「しおり」をもとに打ち合わせを行い稼働日数のカウント方法等についても具体的に対応を決めます。

(詳細は、「7. 生産材の分譲と分配(稼働に対応した薪の分配と贈与)」で紹介)

4. 現在の活動の内容

苫東コモンズの活動は、「勇払原野の風土を共有する」という基本的なスタンスのもと、四季

を通じていつでも可能です。

現在取り組んでいる主な活動内容は、大別すると下記の通りです。

- ①大島山林の除間伐作業と、それを通じた森づくり
- ②静川の小屋周辺の里山景観維持と育林コンペ（詳細は別途記述）
- ③大島山林と静川の林道とフットパスの管理（風倒木処理と刈り払い、サイン（看板）維持、スズメバチ・アライグマ・ヒグマの出没の観察と情報共有など）を通じた地域の森林公園化
- ④遠浅町内会を主とした山林利用促進
- ⑤苫東を代表するコモンズ「ハスカップ・サンクチュアリ」の生育観察（不定期）
- ⑥森づくり研修
- ⑦安全作業のためのチェンソー・スキルアップ研修
- ⑧以上の野外活動のほか、内業として事業計画策定、会計と出納、予算と決算、土地所有者への事業協議、苫小牧市への事業報告、森林法の伐採届、薪の分譲とヤード管理、役員交代と登記の法務局届、貸借対照表掲載等所要の掲載を含むホームページの更新、ニュースレターなどの広報活動、運営会議と理事会と総会、フォーラムなどの勉強会などがあり、これらは特定の担当者任せきりにしない分担と補完の体制がようやく整いつつあります。このほか、行政の環境関連の委員会や雑木林の保育に関する学会報告、専門誌への投稿などがあり、過去に取り組んだ実績とメディアの報道記録はNPOのホームページにほぼすべて掲載しています。

5. 活動への参加方法

グループ活動は毎週土曜日の午前9時半を目途に集合して、夕方まで、適宜年間計画に基づいた必要な活動を行います。集合時刻、稼働時間については、会員の多くが現役の仕事に就いていて、かつ、居住地が札幌や江別など遠隔地にも及んで分散していることなどから、原則として融通の利く「ゆるいもの」としており、作業の段取り、参加者などは、NPOの掲示板で確認することになっています。

苫東コモンズのメンバーとして何らかの活動する場合は、NPO名を記した所定のビブス（蛍光色のベスト）を着用し、一般入林者と区別して行動します。

また、活動の最中には、思いがけないケガなどがないようにお互いが細心の注意を払うのはもちろんですが、「あご、足、怪我は自分持ち」という自律と自己責任の姿勢を基本としており、そのため、入会時にNPOに対して自己責任を誓約する*「確認書」を提出することになっています。合わせて各自の責任において治療等を担保する必要な傷害保険等に加入することとしています。

*確認書

確 認 書

NPO 法人 苫東環境コモンズ

代表理事 ○ ○ ○ ○ さま

わたし _____ は、NPO 法人 苫東環境コモンズの活動における「チェンソー」および「刈り払い機」の使用並びにその他の各種作業にあたって、必要な準備と訓練を行ったと自ら認めたのち、自己の責任において作業に従事することを確約します。

なお、この確認書は、当NPO法人または本人からの申し出が特にない場合は、効力を継続することに同意します。

令和 年 月 日

NPO法人 苫東環境コモンズ

会員名(自署) _____ 印

日常的な活動は、全体的に堅苦しくない柔軟な形態をとっていますが、大まかに中身を区分すると、比較的まとまって共同で行う「グループによる活動」と、おおむね70歳以上の希望者が自己申告して取り組む「里山景観維持活動」など**「シニア・メニュー」に分けられます。

**「シニア・メニュー」と「シニア・ワーク」

苫東コモンズの活動のうち、雑木林の除間伐作業は、技術のみならず機敏さを伴う極めて安全な作業が求められることから、体力減衰と機敏性低下などが顕著になるおおむね70歳前後を目途として、「シニア・メニュー」を選択することができます。

上記の2-(2) 現況緑地利活用事業に掲げた里山景観維持作業や大島山林の除間伐をサポートする周辺作業等がこれに該当し、毎週土曜日のグループ活動と離れて、平日でも比較的自由に行うことができます(ただしビブス着用)。これらは多くの場合、単独作業となるケースが多いことから、チェンソーを持った作業等は10年以上の経験をもつシニアを主な対象とします。

このメニューが包含する具体的ワークは、林道の枝拾いや風倒木の処理など、里山景観の維持にかかる比較的穏やかな作業のほか、静川小屋の清掃管理、薪づくり、フットパス刈り払いとサイン維持、ライブラリーの点検などが中心となります。対象となるエリアは、静川の小屋周辺と林道およびフットパス、さらに育林コンペゾーンと大島山林全域が加わります。

シニア・ワークは、一部高齢者の間でスローガンとして語られてきた「年寄、半日仕事」という不文律を実践するものです。コモンズ型の雑木林管理と組織の維持には、グループ

活動がルーチンとしてこなしきれない「多々の雑務」があり、それを地味に静かに補完するのがこのワークだと換言することができます。除間伐に代表される作業より軽く、時間的制約も多少ゆるいことから、年間を通じた定期稼働の表記○△□とは別に、「*」として通常は「0.3~0.5」でカウントします。

なお、一般には重労働とも言われる晩秋から厳冬期の伐倒作業については、女性会員が対応するのが難しい作業も多いので、稼働のみなし方として「シニア・メニュー」とほぼ同等の扱いにしています。

6. 作業の分担

苫東コモンズのあずかるエリアが広く、作業内容が多岐にわたるため、分担を決め、担当のチーフを定めています。分担とは言え、基本は「善意の持ち寄り」「ひとはみんなのために、みんなはひとりのために」を苫東コモンズの不文律としてきており、足らざるところは気づいた会員が自主的にカバーしているのがこれまでの実情です。

(分担の詳細は別紙のとおり)

7. 生産材の分譲と分配(稼働に対応した薪の分配と贈与)

(平成27年までの申し合わせをもとに薪担当の山本さんの素案を挿入)

○背景

苫東コモンズでは、主として広葉樹林の保育作業を実施し、森林所有者の了解を得て、保育による発生材を冬期間に林地から搬出し主に薪として利活用しています。天候や場所と作業の状況、会員の作業体制によって発生材の量や管理方法が毎年一定とまらない可能性があることから、発生材の活用方法は毎年流動的になりますので、ここでは原則的な方針を示します。

なお苫東コモンズの会員のうち、森林の保育作業を行う作業グループを特に「苫東ウッドィーズ」と呼んで区別してきましたが、ほぼ全員が保育にかかるようになって現在は使用しなくなっているため、ここでは一律「会員」としました。

○基本方針

当NPOは、地域の森林環境を改善する保育活動を行い、その過程で発生する副産物である主として広葉樹の材を、再生可能エネルギーである暖房用「薪」として利活用して、「環境改善」と「資源の地域内循環」の双方の実現を目指します。

○材の帰属と分譲、譲渡

会員が大島山林で冬期間に保育間伐してできた丸太および薪は、全量が当NPOに帰属します。これらの発生材はNPO運営の原資として有価物として保管します。これを薪会員に有償で分譲及び会員の希望者にルールに基づいて譲渡します。

なお保育作業で発生する材は、ナラのほかサクラ、シラカバ等の各種広葉樹と一部カラマツ、トドマツなどが混在します。これらの樹種から構成される薪はできるだけ均等に混ぜて棚を構成させ勇払原野ブランド「雑木薪」と称します。

○分譲

薪会員への分譲価格は下記のとおりとします。

- ・15,000円(1m³あたりの現場渡し単価)
- ・1棚は2.7m³(パレット棚の場合:0.3m(薪の長さ※)×3m(延長)×1.5m(高さ)×2列)

※薪の長さはばらつきを考慮して35cmを30cmとして算定

- ・これより1棚40,500円

ただし原則として、

- ・薪会員への薪はヤードのパレット置きのものを割り当てる
- ・薪会員への配送は行わない
- ・搬出時の積み込み作業も薪会員自身で行うとします。

○譲渡

コモンズ会員で冬期間の保育間伐作業に貢献したものに限り、コモンズから「雑木薪」を無償で譲渡を受けることができます。ただし、分譲の公正化をはかるため、冬季稼働につき、概念として地域通貨「コモン」を想定し介在させます。1コモンは丸太に換算して層積約0.4立方メートル。

1コモンの薪取得に当たっては具体的な譲渡の用途は活動した1シーズン7日(7コモン)以上作業したものに1棚、14日以上稼働したものの2棚とします。

コモンを数える際には冬季伐採作業を1日稼働=1コモン(半日は0.5、半日以上1日未満の場合は2/3)とし、規定日数未満のコモンは切り捨てとします。

なおコモンは当人のみに有効で家族を含め他人に譲渡・貸し借りはできません。

また、薪以外のほだ木の譲渡などを希望する会員に対しては、保育間伐作業への参加に応じて対応します。

作業日数については担当より定期的に公開します。

なお、この冬期間は秋の保育間伐作業開始日から春の薪割り・薪積み作業終了日までとし、目安は11月から5月です。

○薪の譲渡を受けない会員への作業消耗品フォローについて

冬期間の保育間伐作業にあたった会員のうち薪の譲渡を受けない会員(結果的には作業

奉仕)に対しては、貢献に対する謝意を込めて、希望者には作業で必要となった消耗品の補填を行います。ソーチェーン1回の取替を想定していますが、これ以外は協議事項とします。

○その他

そのほか、これまでの経緯の中で取り交わされてきた決まりごとや過去のルールなどは以下の通りです。

- ・会員への薪「譲渡」に関して、あくまで当 NPO に帰属する薪が「譲渡」されるものであり、作業参加日数(コモン)が薪を得る「権利」ではありません。
- ・コモンの譲渡・貸し借りが不可であり、譲渡を受けた薪もコモンと同等であることから家族・親戚・友人・知人等に譲渡・有償分譲等はできません。
- ・作業への夫婦・家族参加の場合コモンの算定は1世帯ごととなります。ただし女性や子供でコモンとしての作業量に満たない場合はコモンに計上しません。
- ・分譲と譲渡の残余について薪業者などから分譲希望があった場合は、別途対応します。

8. 安全管理と義務

雑木林の保育作業は、労災事故の典型にあげられるほど危険を伴うことも多いものです。これを技術の習得と繰り返し学習を行うことで、「危険」を「安全」に変えるよう、チェーンソーのスキルアップ等について研修(相互または外部講師招来)を行います。

実際の作業では、自己の技術力を越えそうな伐倒の場合などは無理をしないで経験者に任せ指導を仰ぐとともに、単独の作業は極力控え二人以上を心掛けます。仮に単独で行わざるを得ない場合には、掲示板などで他の会員に事前と事後に報告するようにします。

また、技術と安全喚起について、日頃から研鑽を積むよう努め、得たスキルやヒヤリハットの経験と情報はできるだけ共有するようにします。

9. エリアごとの具体的活動

①育林コンペ

上記2-(2)および4-(2)で示した育林コンペは、NPO設立前の平成9年から継続している旧苫東地区森林愛護組合のプロジェクトで、苫東コモンズが担い手を変えて継承している「雑木林保育の美しさ」を競うコンテストです。数年ごとに出来栄を全員で見学し担当したオーナーがプレゼンするもの。

個人またはグループごとに約0.5ヘクタール、団体は数ヘクタールが貸与されます。保育で発生した材は作業者が利用できます。稼働日は自由で、家族、友人と共同で来て、作業や散策など「マイ・里山」として利用できます。入会時、希望に応じてエリアが与えられます。

なお、作業の有無多少にかかわらず、毎年度、伐採届を行います。

②静川の里山維持と小屋の管理

周辺の風倒木処理、密度管理、薪づくりと補充、小屋周りの刈り払いと林床の選択的除草（フタリシズカ、スドキ、エゾタンポポ、オシダを残存）、フットパスの枝拾いと刈り払い、林道沿いの風倒木と危険木除去、薪ストーブと煙突掃除、盗難防止（管理人や会員が頻繁に往来して人気（ひとけ）をつけ林道から丸見え状態とする）、テラスとログの防腐剤塗布、ライブラリーとNPO書類保管、ほか）を行います。

③大島山林

つる伐り除間伐、フットパス開設と刈り払い管理、サイン、ベンチ、町内利用のための探鳥会とキノコ食毒判別会を開催、薪ヤードの管理、作業用ブルーテントの維持管理、フットパスの落ち枝拾いと冬期間のスノモによるトレース（適宜）、ほかを行います。

なお、苫東コモンズが対応しきれない薪ヤード以外の広場は土地所有者・㈱苫東に依頼、冬期間の作業へのテントアクセス路と駐車場の除雪は、町内会道路除雪業者に有償で依頼。

④ハスカップ・サンクチュアリ

2-（3）で述べたとおり、現在は保全観察中。苫東コモンズ設立の発端となったハスカップ・コモンズの中心エリアです。世界に誇るハスカップの自生地の中にあり、最も密度が高い一帯。かつ、最も根元径が太い「ハスカップのご神木」とも呼ぶべき株が数本散在します。昨今、原野のハスカップ摘みが低調なため、極端に荒れ始めているようです。

⑤巡回とルーチンワーク

地域の人々がまた来たくくなるような雑木林景観を目指す建前から、日常的な修景作業は欠かせません。林道やフットパスの枝拾い、危険木（枝）と風倒木整理、そして雑草の刈り払いなど、作業は「雑木林のガーデニング」と呼ぶこともあります。安心感を持って散策するために奥行100m～200mが見通せるような疎な密度を心掛けています。里山景観の維持を心掛けると、清掃作業だけでも無尽蔵にあり、林に通うことそのものがルーチンワークになってきます。

10. その他

（気が付いた事項を今後、下に追加していきます）

~~~~関連する資料と申し送り事項~~~~

### 安全な伐倒作業をするための指針

チェーンソーのスキルアップは、現在技術顧問をしている会員の安部文志朗氏が中心となって進め、青森から外部講師・小田桐久四郎氏を招いた2日にわたる研修も実施してきました。近年は、会員自ら実技をしながら意見交換をする自主研修の形態をとっています。主なテキストは安部技術顧問が編集した下記の冊子で、研修前に担当者に相談すればファイルを入手できます。

- ①「チェーンソー作業マニュアル」
- ②「正確で安全な伐倒を目指す」
- ③「チェーンソーの操作ガイド」
- ④「伐倒方法の移り変わり」
- ⑤「風倒木・枯損木処理」
- ⑥「永年無災害チェーンソーマンが語った ためになる安全作業「ひとこと」集」

このほか、会員は、札幌ウッドೀズ「森林の手入れガイド」や、NPOもりねっと制作の「森づくりとチェーンソー」などを開くことがあります。森づくりに関する森林科学系の専門書や林業技術のハウツーものは多種発刊されており、静川の小屋に備えたライブラリーでは、その主なものを閲覧することができます。

### スノーモービルの安全運転と取り扱い要領 (2024/ Jan 31 「掲示板(草苺記)」から転載)

いよいよ先週あたりからスノモによる藪だしが始まりました。分担表の担当は確か kurita さん、urabe さんですが複数の方が関わる可能性もあるので、これまでわたしが使っていた間の取り扱い要領をメモしておきます。

- ①まず、もっとも危険な運転のケース  
・1月末頃からテント前など部分的に氷状態になると、ソリは 制御不能になって横ブレします。できれば車のあるところは通らないのが無難。

\*草苺は過去2度衝突を経験

1回目は、中広場で oyama さんの車に(結果、破損、修理)

2回目は、中広場で停車した際に滑り過ぎて kuri ちゃんに衝突。転倒したが大怪我に至

らず。(いずれも奥のテント周辺エリアからの周回ルート使用時)

・ソリはスノモがけん引している間は直進性がある程度ありますが、下り坂などソリがフリーになると猛スピードであらぬ方向に勝手に滑って樹木にぶつかり、ドライバーはむち打ちになります。かなりの衝撃で、これは避けるべきです。当然助手も。

・平坦な木立を抜ける場合も、木立にぶつかる可能性がいつもあります。徐行と後部確認をこまめに。牽引ロープの長さ調節も念入りに。

## ②始動にあたって

・カギは現在2個しかありません。スペアキーは作れず、スイッチ部分丸ごと入れ替えの由。紛失注意。ひとつは、薪小屋正面に、もう一つは座席下のボックスに。蛍光ヒラヒラテープ付き。

・現在、2代目になるバッテリーも放電し、フル稼働しても十分充電されません。当面は、まず左のチョークを一番下まで降ろし、セルモーターをかけた状態でダイナモを曳きます。充電ができなくても1, 2回で懸かります。かかったら、チョークはすぐ戻します。ここを短時間でこなさないとエンジンはかぶります。

・応急措置として tomi-k さんが外付けの小型バッテリーを用意してくれる予定。スノモのバッテリーから端子ケーブルを外に出すので、始動時にそれをつなぐとOKです。草苅はバッテリーを新調する前まで、借り物の小型バッテリーでその方式でした。

・かかるはずなのにどうしてもかからなくなった時、ハンドル右のグリップにある、「非常時の赤いストップボタン」が押されていないか、確認します。何かの拍子に簡単に押してしまうので、要注意。押されていれば上に戻します。これ、意外とあります。

## ③ハンドルと氷除去

・スノモのハンドルは重くて操作性はまったく良くありません。一日使えばドライバーの腕と肩はへとへとです。よけられず誤ってスノモのソリ部分を木立にぶつけるのは絶対避けてください。対策はスピードを出し過ぎないことと、左のハンドルのブレーキを使用することです。

・本当の非常時は前述のハンドル右グリップにある「非常ストップボタン」。わたしは押したことがありません。

・厳冬期、特に時々溶けて氷になるころ、ハンドルと連動するスノモの前のソリ部分の連結アーム部分が凍ってロックされることが良くあります。これではハンドルが固定されてしまうので事故

になります。対策は、面倒でも、始動まえに座席下に入れてあるロックハンマー（草苳の岩登り用）で氷を割って除去してください。

#### ④牽引ロープの調整

・①で述べたようにソリが勝手に動き出すのを微妙に軽減するために、oyama さんが牽引ロープを調整してくれています。運転していて不具合を感じたらすぐ oyama さんに相談してください。

・牽引ロープは酷使したり、樹木にぶつかったりしていると、切れます。

#### ⑤フル回転、辞さず

・コモンズが使っている YAMAHA のバイキングは新雪・深雪ではほぼ無力です。左右バランスも直進力も失って、キャタピラーを回してもただ雪に潜るだけです。イメージとしては、このスノモは3月、雪が締まったころ、酪農家がソリに堆肥や融雪剤を載せて牧場に散布するころの状態がベストのようです。遠浅は積雪が少なくすぐ溶けるので、使用可能期間は1月末から3月上旬の40日ほど。

・登りは、できるだけゆるい斜面を選び、かつフル回転で登り切ります。5500～6000回転です。これを繰り返すと、スノモの調子は良くなるように感じます。

#### ⑥座席下の装備

・遠心クラッチ用のベルト1本、ベルトシュリンゲ、燃料ポンプ、のこぎり、冬山用組み立てスコップ、牽引ロープ（自動車用）、エンジンオイル2本半、タオル、など

#### ⑦ドライバーの負荷を軽減するために

・藪出しをドライバーと助手だけに任せるのは酷です。しばしば30kgくらいの丸太がドドッと続くこともあります。面倒でも、そばで伐倒作業などをしている人は、積み下ろしは必ず手伝うこととし、効率を上げるために、積む場所で雪を撥ね凍り付いた丸太をトビで剥す人の2名がいると好都合。

・降ろす場所にも1, 2名いるとベスト。ここでは空き時間に、35cmに伐られていない長材の玉切りなどがあると時間のロスがありません。このようなカバーが実は不可欠です。

#### ⑧3月上旬は「加雪」

・搬出しているルートが先に溶けて地面が出てきます。2月末から、除雪ならぬ「加雪作業」が必要になってきます。

⑨スノモの後ろに入らない

・作業中、スノモはよくバックする必要が出てきますが、バック(後退)は操作性が悪く急に止まれないのでバックし過ぎることがあります。止まってくれるものと思って、スノモの後ろにいることはとても危険です。バックの音が聞こえたら脇に離れましょう。

⑩故障を回避

・現在のスノモは、コモンズが薪で貯めた貯金と外部補助金をそれぞれ半分ずつ使い120万円で購入したのですが、スノモの修理は経費が掛かることが予想されます。整備店まではコモンズが自分で運搬することから始まります。コモンズの主な収入源は薪1棚40,500円が頼りですので、ぜひ、スノモを無傷で長持ちさせたいものです。現在8、9年目で走行距離は1800km弱程度だったかと思います。

~~~~~

以上、長くなりました。購入時からのわたしのヒヤリハットと反省でもあります。

怪我なく藪だし作業をするための、遅くなった担当バトンタッチのイワズモガナのメモでした。参考にいただければ幸いです。(-_-;)

以上